旧増田家住宅四棟　おもて　なかえ　石蔵　浴室便所

（ますだけ）

附 石敢當（つけたりせつかんとう）

【所　在　地】　薩摩川内市入来町浦之名７７番
【種　　別】　重要文化財（建造物）
【指定年月日】　平成２６年１２月１０日

旧増田家住宅は，鹿児島県北西部に位置する旧武家町，入来麓伝統的建造物群保存地区に所在する。屋敷は，明治６年頃に建てられたおもてとなかえ，大正７年の石蔵，大正期につくられた浴室便所で構成されている。

主屋は，トコのあるザシキのあるおもてと，土間とダイドコロのあるなかえを連結した伝統的な分棟型形式である。おもてとなかえは大きさや位置をほぼ揃えており，この点が近世の武家住宅にみられるかたちと異なっている。

また，近世の武家住宅の形式を継承しながらも，平面構成や規模の変化が近代への移行を示唆している点で価値が高い。大正期までに整えられた屋敷構えも含め，入来麓伝統的建造物群保存地区を代表する近代住居として深い意義がある。

○　指定基準
　流派的又は地方的特色において顕著なもの

全景　左：主屋（手前「なかえ」，奥「おもて」
右奥：石蔵　　右手前：浴室便所

主屋外観（左「なかえ」，右「おもて」）

おもて内観

写真提供：薩摩川内市